

# 3. 河川整備の現状

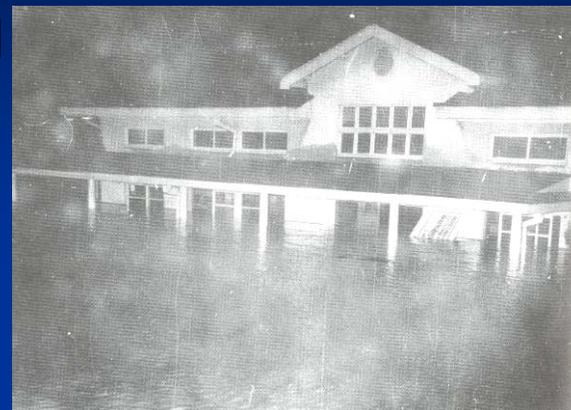
## 氾濫を繰り返してきた桂川

### ■ 亀岡地域の主要洪水

年月	原因	浸水面積 (ha)	浸水戸数 (戸)
S28. 9	台風13号	690	1,350
S34. 8	台風7号	440	300
S34. 9	台風15号	360	70
<b>S35. 8</b>	<b>台風16号</b>	<b>700</b>	<b>1,400</b>
S36.10	豪雨	420	250
S40. 9	台風24号	410	200
S47. 9	台風20号	400	180
S58. 9	台風10号	229	64
S57. 8	台風10号	213	23
H元. 9	豪雨	200	8
H 7. 5	豪雨	41	0
H16.10	台風23号	270	7

- ・ 3年連続で4回の浸水
- ・ S34は8月、9月と連続
- ・ S35は戦後最大洪水

S28洪水



昭和28年9月 台風13号 亀岡駅

S36洪水



渡れざる船安をばり船と固守る國民たち (9.17.36)

←日吉ダム完成後最大洪水

S35洪水(戦後最大)

亀岡駅付近



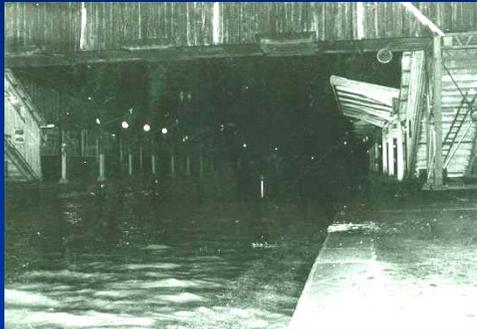
追分町 亀岡駅前通り



# 桂川の氾濫による 浸水被害の状況

S40洪水

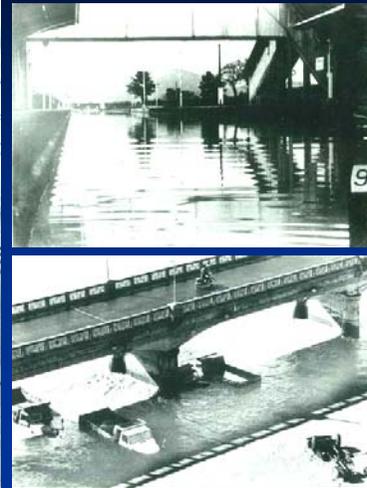
亀岡駅構内



S47洪水



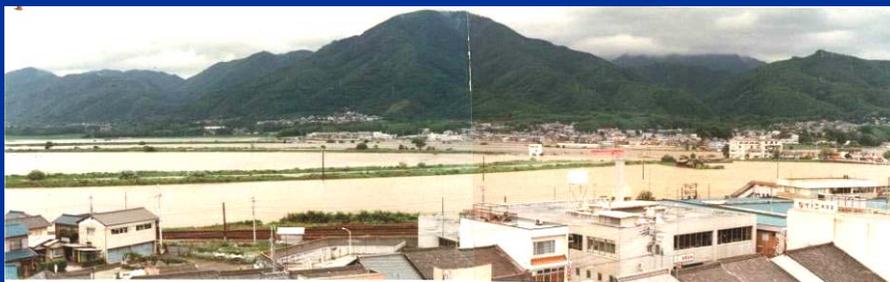
亀岡駅構内



H7洪水



S57洪水 (当面計画対象)



H元洪水



H16洪水



保津川遊船



浸水区域

実績浸水範囲

# 治水対策の基本方針

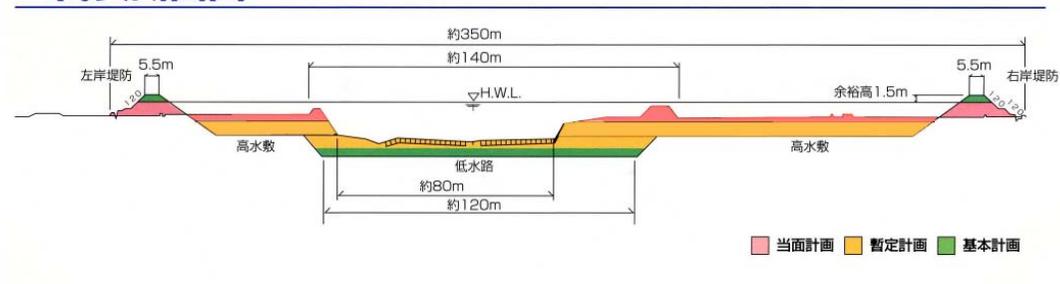
## ■ 桂川治水対策の基本計画

- ◎「日吉ダムの洪水調節」+「河道改修(保津狭の部分開削含をむ)」
- ◎目標及び計画流量(請田地点): 1/100年、3,500m<sup>3</sup>/sec(5,400m<sup>3</sup>/sec)
- ◎上下流の河川整備状況に応じて、段階的に治水安全度の向上を図る

## ■ 3段階での事業実施

- 第一段階** : 当面計画としてS57年の出水に対応できる改修
- 第二段階** : 暫定計画として、2,300m<sup>3</sup>/sec(概ね1/30年)に対応できる改修
- 第三段階** : 基本計画3,500m<sup>3</sup>/sec(1/100年)に対応できる改修

### ■ 代表断面図

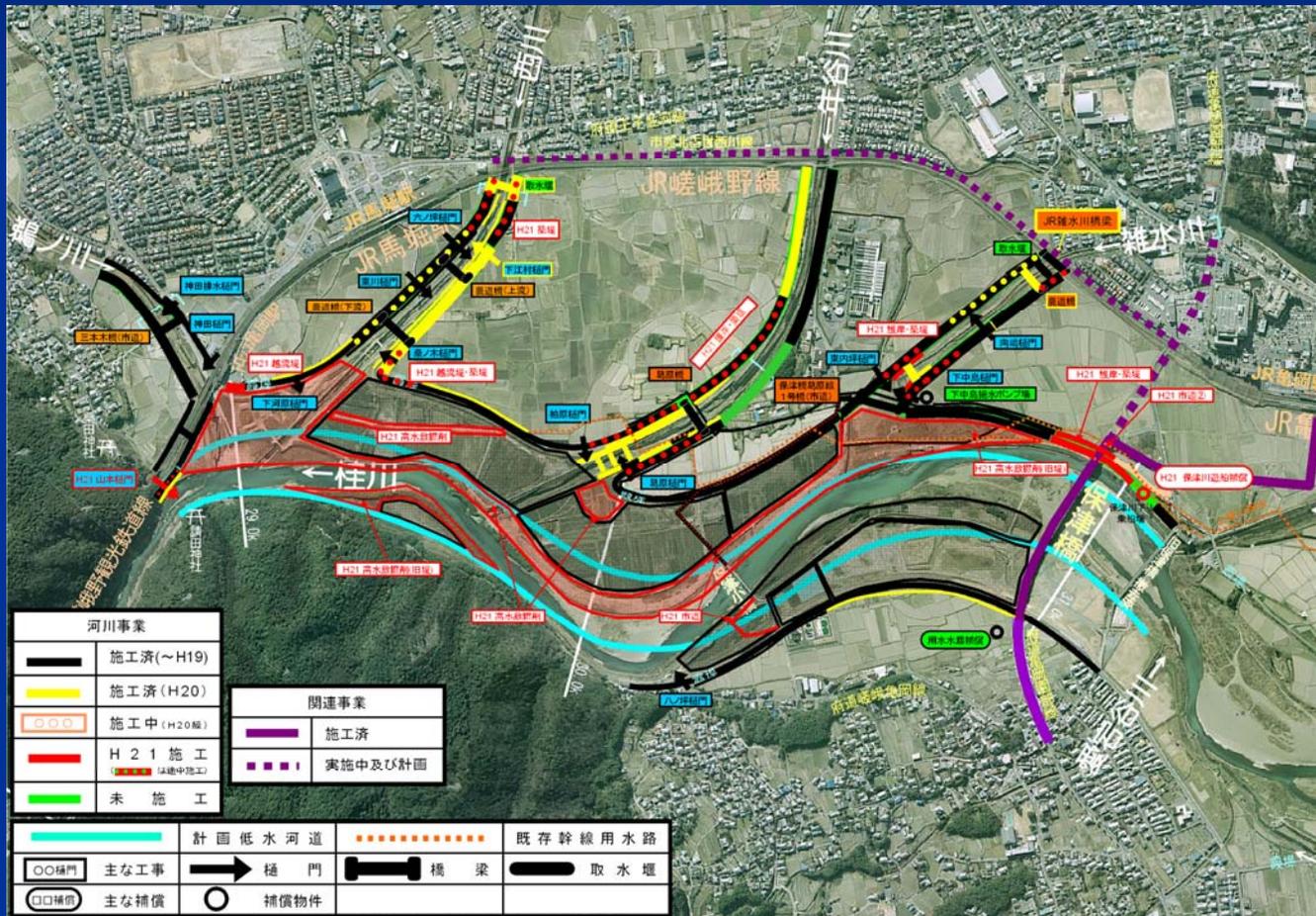


### < 3段階事業実施計画 >

	築堤	高水敷	河床	保津狭	霞堤
当面計画	HWL堤防	部分掘削	—	—	存置 1,500m <sup>3</sup> /s HWL高
暫定計画	完成堤防	完成掘削	一部切下げ	一部掘削	存置 2,300m <sup>3</sup> /s HWL高
基本計画	完成堤防	完成掘削	完成切下げ	完成掘削	締切り

# 整備状況

## 桂川(保津工区)緊急対策特定区間 整備計画



### ○改修の経過

- ・S57 桂川改修計画の公表
- ・S62 桂川改修全体計画認可
- ・H2 三段階事業実施計画策定及び協議
- ・H8 用地取得着手
- ・H9 工事着手
- ・H15 緊急対策特定区間の指定
- ・H21 当面計画整備の完成(予定)

# 今後の整備の考え方

## 現状と課題

◎平成10年に日吉ダムが完成し治水安全度は飛躍的に向上

→平成16年の台風23号出水において、亀岡で約90cmの水位低減効果

◎保津工区の当面計画での整備が平成21年度事業で完了予定

→概ね1/10の安全度は確保できるものの、平成16年の台風23号出水規模では浸水被害が発生  
・広大な河川空間が新たに創出

◎国においては、今後概ね30年間の具体的な河川整備の内容を定める「淀川水系河川整備計画」を策定（H21.3月）

→戦後最大洪水のS28年台風13号洪水を安全に流下させることを目指した河川整備の実施

## 今後の河川整備

1) 当面計画に引き続き、上下流バランスを確保しつつ、治水安全度の着実な向上を図る。このため、「淀川水系河川整備計画」に基づき、戦後最大洪水を安全に流下させることを目指し、段階的かつ着実に整備を進める。

→段階的整備の実施計画検討・国との協議調整

2) 保津工区において新たに創出される広大な河川空間の利活用や、アユモドキをはじめ多様な生物の生息環境の保全再生について、地元・市・関係団体及び有識者等とも連携しつつ検討の上実施していく。

→保津川かわまちづくり計画の策定・実施

3) これらの河川整備を着実に進めるためには、下流直轄区間の整備促進が不可欠であり、京都府並びに上下流の関係市町が一体となって、桂川の治水対策のより一層の推進に取り組む。

## ■ 戦後最大洪水対応を目指した段階的整備(案)

### ○戦後最大洪水

・S28年度及びS35出水

・2,200m<sup>3</sup>/sec

→暫定計画相当

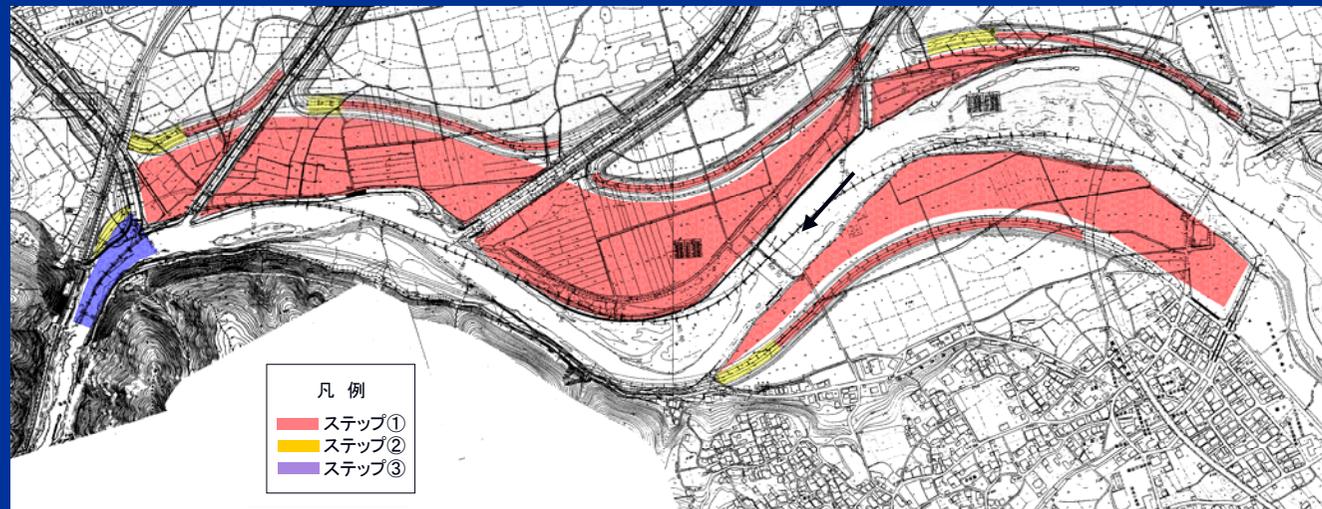
(日吉ダム暫定運用)

○ Step①: 高水敷掘削、堤防かさあげ...かわまちづくり検討対象

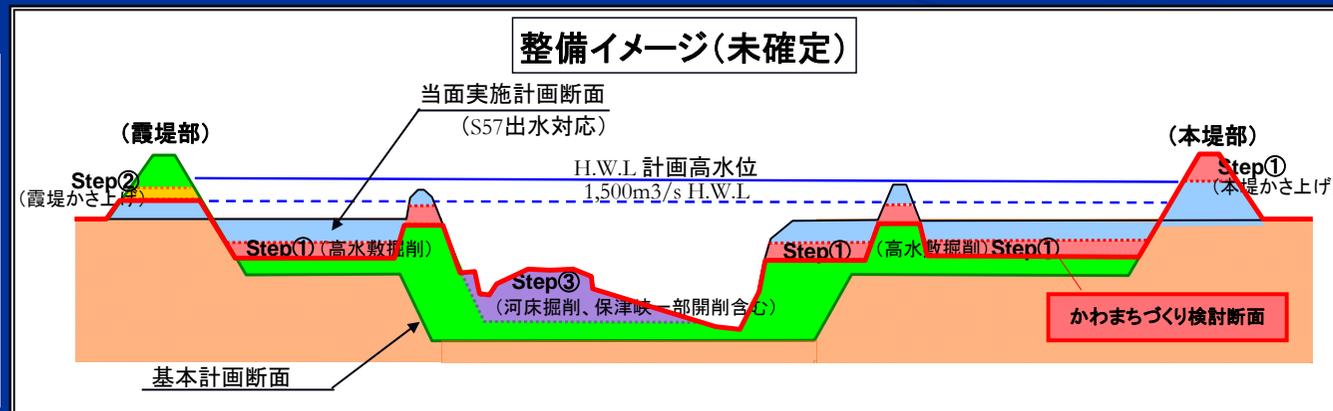
○ Step②: 霞堤のかさ上げ【H16台風23号出水対応】  
(下流の整備状況を踏まえて実施)

○ Step③: 河床掘削(保津峡一部開削含む)【戦後最大洪水対応】  
(さらに下流の整備状況を踏まえて実施)

国と協議中

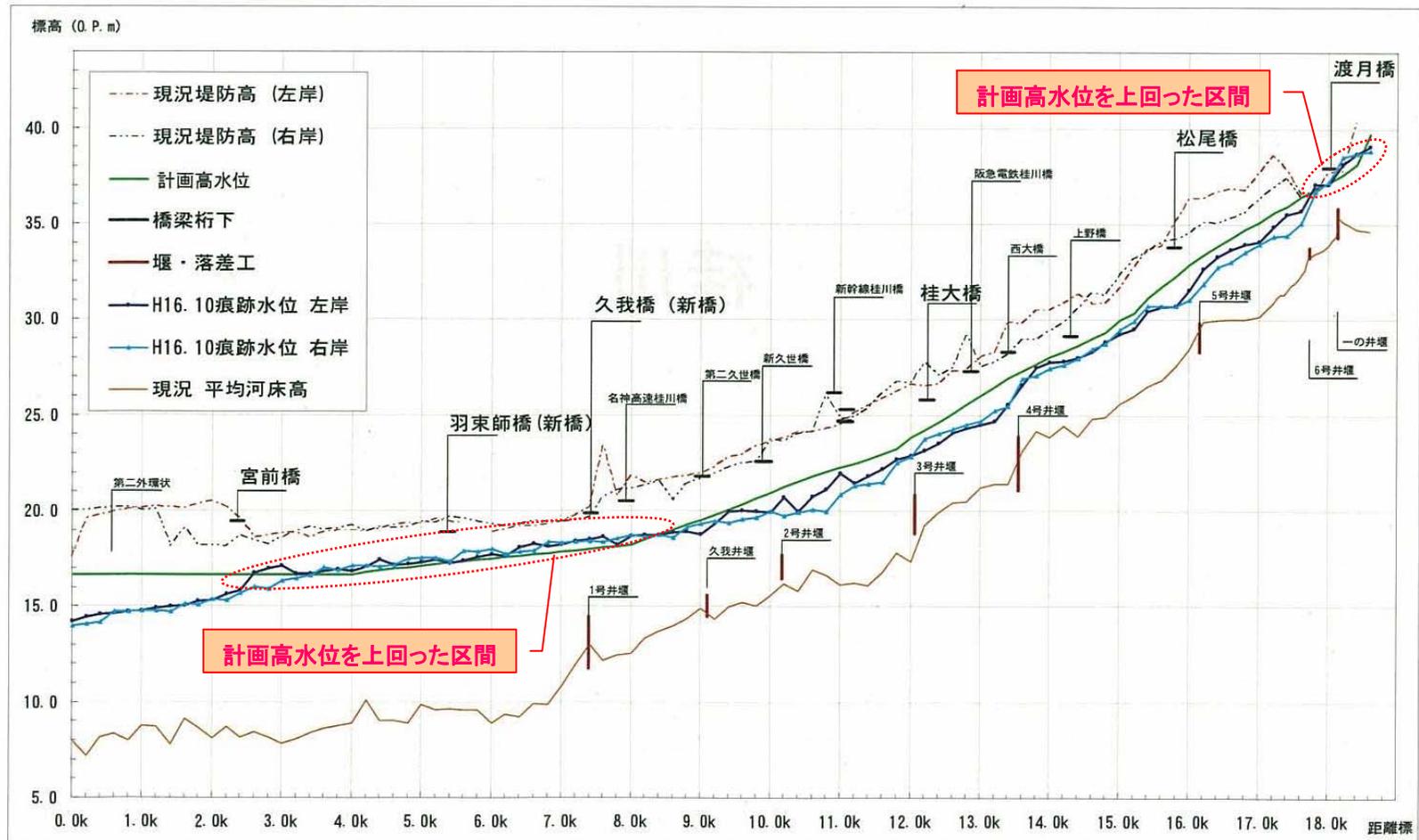


凡例	
	当面計画で施工
	Step①
	Step②
	Step③
	基本計画で施工
	かわまちづくり検討計画断面



## ■ 国交省直轄管理区間の整備の考え方

### 平成16年10月 台風23号 桂川洪水痕跡





## 大下津地区整備状況

- ・大下津地区において引堤事業を継続実施します
- ・戦後最大洪水を流下させる河道掘削を実施します



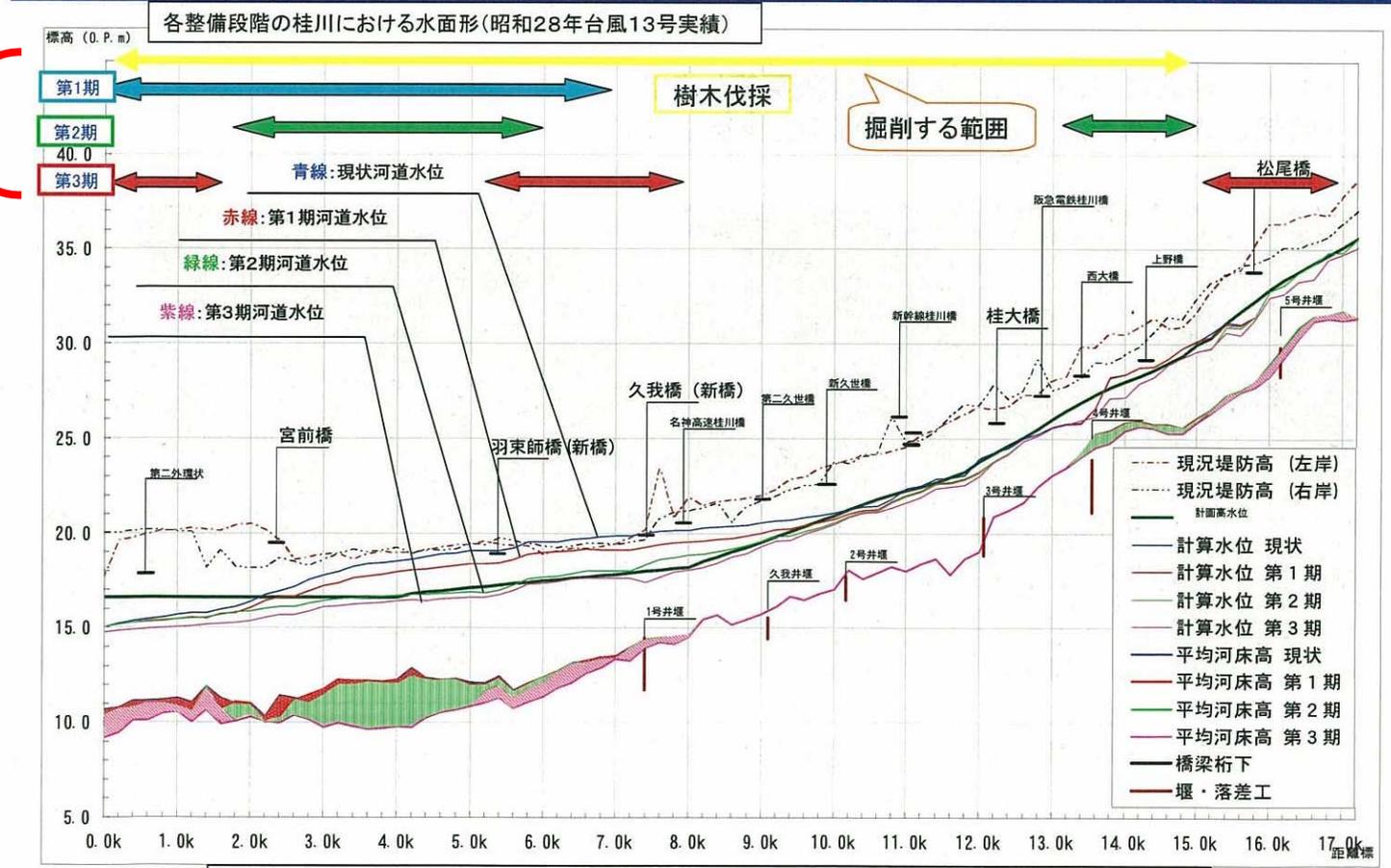
用地取得率 83.5%(平成21年11月現在)



# 淀川水系河川整備計画(案)における桂川改修の進め方(案)

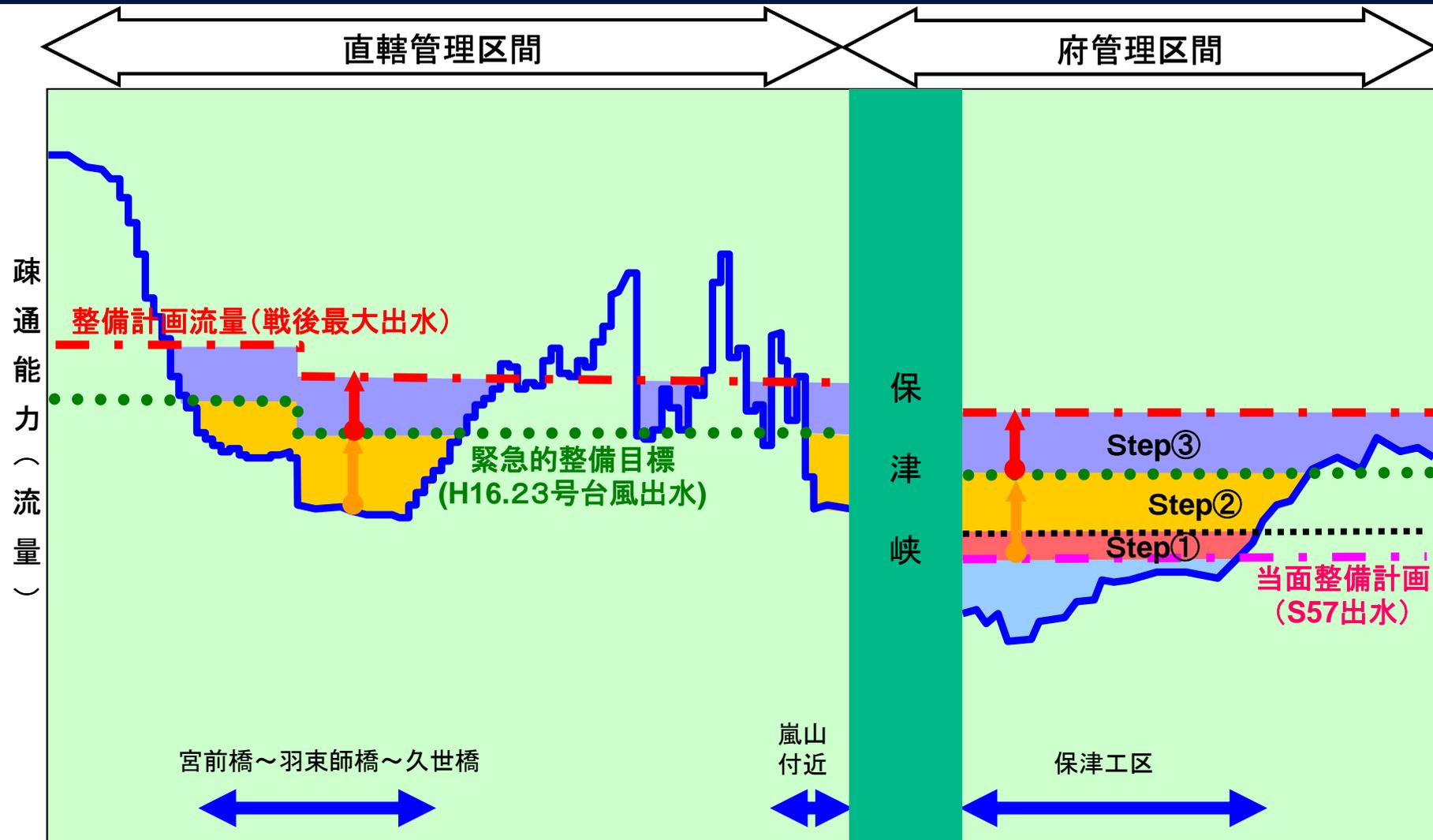
今後概ね  
30年間で実施

当面の整備として、氾濫被害が生じたH16台風23号の洪水が安全に流下できる程度の掘削まで緊急的に実施。  
【概ねH35年に完成】



※概略検討の結果であり、今後の調整・精査等により変わるもので、確定したものではありません

## ■ 上下流バランスのイメージ



整備内容及びスケジュールについて  
国と協議調整中